

地域の元気を生み出すのは「自主・自立・自考」の精神

わが党がいかに地域活性化に真剣に取り組んでいるか。村上誠一郎衆議院議員は全国を歩き、訴えてきました。『地域再生の伝道師』とも言える村上議員に、地域を元氣するための取り組みを伺いました。



村上誠一郎 地域再生調査会長

― 自民党はどのような地域活性化策を進めてきたのでしょうか。

限られた財源と地域の事情の中で、地域を元氣にするには、何よりも知恵と工夫が必要です。国が支援策を提供し、地域はその支援を受けるという構図は、もはや適当ではありません。まず地域が、歴史や文化など地域の特性や資源を活用し、「何とかしよう」と地域の独自性をアピールすることです。そうした、やる気のある地域を国が支援する仕組みが地域活性化には

不可欠と、私は考えています。

地域活性化の具体的施策には、5つの柱があります。①都市再生②中心市街地活性化③構造改革特区④地域再生⑤市場化テストです。この5つの施策を横軸として、わが党は数多くの法律をつくってきました。

また、この横軸の施策を推進する「知恵」「担い手」「資源」「交流」「基盤」の5つの視点が縦軸です。それぞれきめ細かなメニューとそのアプローチ方法を示してきました（資料1）。

この5つの柱と5つの視点が、地域活性化策の全体像であり、わが党はそのノウハウをまとめた「地域活性化ガイドマップ」を作成し、配布しています。

― どのような地域が元氣になるのでしょうか。

地域活性化の成功例として、私がいつも取り上げるのが、広島県呉市の「大和ミュージアム」です。ここには実物の10分の1のサイズに縮小された全長26メートルの戦艦大和が展示さ

れ、すごい迫力です。2、3階には呉市の歴史や造船技術を、4階には「宇宙戦艦ヤマト」の模型や関連資料を展示しています。つまり、老・壮・青のそれぞれの世代が楽しめる展示構成になっているのです。ですから、リピーターも非常に多く、グッズの売り上げにも貢献しています。

地域活性化というと、国の補助金や交付金で箱物をつくるというイメージがあります。そうではなく、地域の住民がその地

域の特性を引き出し、活性化策を推進すれば、成功します。

「大和ミュージアム」は、呉市役所の一職員（現在は館長）が10年がかりで苦勞して集めた資料によってつくられたのです。実物の10分の1サイズの戦艦大和と彼が探し出した実物の設計図を基に製作されました。たった一人の職員がコツコツと愚直に取り組んできたことが、今で

客にふるまう。お酒を飲めない人には山菜やイワナなど郷土料理を提供し、民話を聞いてもらう。こうした地元ならではの創意工夫が、地域の再生に結びついています。特区はアイデアが湧き出る宝の山と言えます。

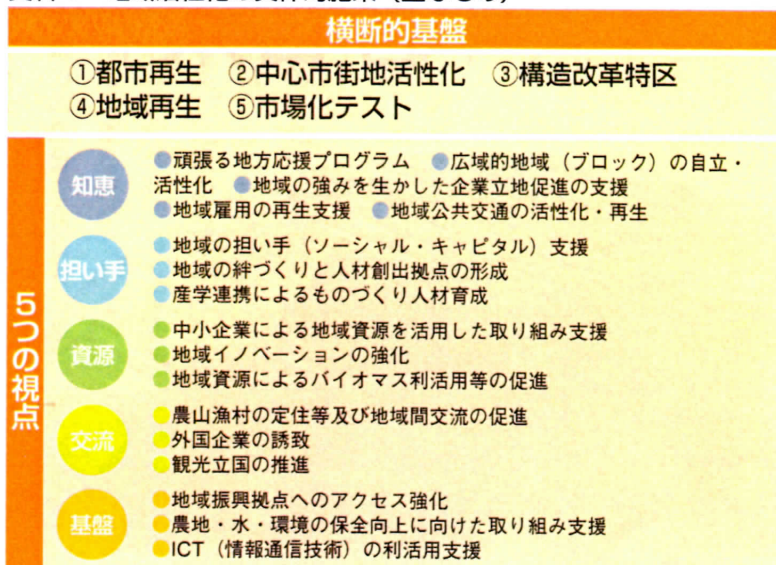
―市場化テストとはどういうものですか。

公的なサービスを民間に委託

―民主党は、どんな地域活性化をしているのですか。

民主党の地域活性化策は、高

資料1 地域活性化の具体的施策（主なもの）



は全国に名前を知られる博物館にし、市の活性化につながったのです。

創意と工夫が地域の活力につながる例として「構造改革特区」があります。民話の里と知られる岩手県遠野市は、どぶろく特区の第1号です。原料には地元産の米とアワ、ヒエを使い、農家

する際、効果がどの程度期待できるのか。それを試すために行われる官民競争入札制度のことです。これは米国のインディアナポリスの市長が推進した政策で、市の仕事を民間に委託することで住民税を引き下げました。ある自治体では給食調理員が実働2000日程度で、年収約800万円。民間で同じ職種の人と比べると、3〜4倍優遇されています。そこに市場化テストを導入すれば、官と民が互いに安くて質の良い仕事を示せます。

速道路無料化、「子ども手当」、農家への戸別所得補償など、単なるバラマキです。しかも財源がないため、地域は不安でしようがない。地域に成長の種をまき、育てる政策ではありません。今、地域を元気にするのは、わが党が示した様々なメニュー（施策）やツール（道具）を使つて、それぞれの地域のリーダーが、地域の特性を考えながら、具体的な活性化プランを立案し、地道に自分たちで取り組むことです。

地域には必ず「宝」があります。その宝を発見し、「自立・自考」の精神でチャレンジすること。そうした地域が元気になっていきます。

